慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	西比利亜の経済的意義（中）
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.5 (1918. 5) ,p.655(117)- 674(136)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19180500-0117

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

銀行の紙幣發行高も亦左の期間に於て增加した　ること左表に示すが如し。

各日付に先だつ四週間平均流通高

英國銀行		英國個人銀行		英國合資銀行		合計	
一九一四年七月八日	二九、一〇九、一四九磅	一九一四年七月四日	六二、五七八磅	一九一四年七月四日	一九、一三五磅		二九、一九〇、八六二磅
一九一五年七月七日	三三、九四六、四八〇	一九一五年七月三日	八三、九一二	一九一五年七月三日	二五、六三八		三四、〇五六、〇三〇
一九一六年七月五日	三五、七〇八、九六六	一九一六年七月一日	九四、七六七	一九一六年七月一日	三〇、六四七		三五、八三四、三八〇
一九一七年七月十一日	三九、三五八、〇八一	一九一七年七月七日	一一五、〇四三	一九一七年七月七日	二八、七三四		三九、五〇一、八五八
		愛蘭諸銀行		蘇格蘭諸銀行		合計	
一九一四年七月十八日	八、〇三八、三九六磅			七、九九〇、一一八磅		一六、〇二八、五一四磅	
一九一五年七月十七日	一三、二五九、八〇二			一一、三七二、二七九		二四、六三二、〇八一	
一九一六年七月十五日	一七、三六五、七七六			一四、五二〇、三八五		三一、八八六、一六一	
一九一七年七月十四日	二〇、〇六九、二九七			一七、四五一、五七五		三七、五二〇、八七二	

今や金貨は全く流通上に影を收めたるが、時に些細なる額の銀行に回收せらるゝことあり。又千九百十七年一月十二日より二日十六日に至る軍事公債の發行に際し、少數の應募者は各自の家庭に貯藏したる金貨を以て、應募金の全部又は一部を支拂ひたるものあり。戰時小切手の使用の著しく增加したるは注目す可き事實なり此點に就て大藏大臣は千九百十七年五月二日下院に於て前年度印紙稅の收入を論ずるの傍ら、「一片印紙に依て徵收せられたる收入は二百萬磅を超へたり。此金額たる戰爭以前に比較して空前の增加を示したるものなるが、其原因は專ら小切手の使用に基き、小切手は戰爭の進行中通貨の一形態として、著しく其使用を盛ならしめたり」と云へり。

西比利亞の經濟的意義（中）

阿部秀助

四

「トランス・バイカル」に於ける住民の大多數は農業を主とするものにして、此地方の農產物としては春小麥、豆類、燕麥、大麥、蕎麥等にして、又た少數の地方には黍、亞麻及大麻を產す、次ぎに馬鈴薯は本州內各地に產するも、其數量は僅かに家庭の需要を充たすに過ぎず、尙ほ土地は自由に使用し得る結果、別に作物上、强迫的の轉作なきも、しかも、自然に斯くの如き現象を見るに至り、又、屢〻休田として取扱はるゝ田地少からず、次ぎに一般の通則としては肥料を使用することなきも、時に數年前より動物的養料を使用する處あり、次ぎに千九百十年及十一年の兩年に於て一「エーカー」に對する播種、平均收穫高、最高收穫高を擧ぐれは左の如し。

農作物	播種量	平均收穫高	最高收穫高
	封度	封度	封度
秋期ライ麥	八〇—二四〇	八四三	二一二三
春期ライ麥	六七—二二七	六四二	二三七三
小麥	六七—二二七	五六〇	二一六〇
燕麥	八〇—二六八	五七三	二二九三
大麥	六七—二二七	六二九	三二〇〇
蕎麥	四〇—一七四	四九三	一三三三
馬鈴薯	四〇〇—二六八〇	五六二〇	二六六六七

以上、作物の播種は五月初旬を以て始まり同月下旬又たは六月初旬を以て終るを常とす、又晩春及初秋に於ける霜害と風水の厄難とは本州に於ける農業の發達に對する非常なる障害たり尙ほ野菜類の栽培は本州到る處に見るも何れも小規模なり、蓋、本州に於ける野菜類の價格が比較的高價なることが此業の發達を促かすに不拘、今日に至る迄此方面に對し何等注意の拂は

れしものなく、加ふるに栽培方法の如き多く幼稚なるを免れず。

五

牧畜業は本州民にとりて最も必要なる職業にして殊に土人にして遊牧の生活をなすものにありては農業に從事するもの殆んどなく、多く家畜を飼ふを以て主なる職業となせり、而して本州に於ける家畜の總數は千九百十一年の調査によれば二八五八八五八頭にして之れを區分する時は馬五七〇六三〇頭、牛九八三五三〇頭、羊一〇五八八一七頭、山羊一一四一〇五頭、豚一二〇七八四頭、駱駝一〇九九二頭なりとす、以上の中、牛馬は何れも本地方産にして克く酷寒の氣候と虐待とに堪ゆ、而して通常馬一頭の價は二五弗七五、牝牛は體軀小にして乳汁の量少く一頭平均一八弗〇三、食用牡牛は二頭に就き五一弗五〇より一〇三弗に至る、羊は體軀比較的大にして、肉及皮は共に佳良、而して之れが平均一頭の價格は二弗五八、山羊は土人の多く飼ふ處にして一頭一弗八〇、豚は本州に於て普通一般に見る處にして、之れが平均價格七弗七三、最近外國種の輸入によりて改良の緒につけり、駱駝は强力にして非常なる耐忍力を有し二頭の積載量は二一乃至二五「ハンドレット・ウェート」に達し、之れが一頭平均の價格五一弗五〇なりとす。

六

漁業は本州到る處に行はれ、就中大規模なるは「バイカル」湖、「セレンガ」「シルカ」、黑龍江の諸流及「エリビンスカ」「シャリシャ」「タッサ」の諸湖等なりとす、次ぎに本州に於ける主要なる魚類は鮭の一種にして「バイカル」湖に産する「オームル」其他石班魚 Salmo thymalius、梭魚、鯉、淡水産鱈、鱒魚等なりとす。

狩獵は本州民殊に本州の北部に生活する土人にありては最も必要なる職業たり、而して本州に於ける最も主要なる毛皮獸は黑貂、栗鼠及山撥鼠の一種たる「タラバガン」にして、以上の中北部に産する黑貂最も高價なるも、しかも數百萬に達する栗鼠と「タラバガン」とは土人にとりては最大の收入を齎らすものなりとす、即ち毛皮の需用上、年々獲得せらるゝ栗鼠の數は約三〇〇〇〇〇〇に達し、之れが價格は現時に於て騰貴の傾向を有せり、例者數年前栗鼠一疋の相場は僅かに五乃至八仙に過ぎざりしが今日にては二五乃至四〇仙、甚しさは五〇仙の高價を呈するに至れり。

本州に於ける工業は極めて微々たり、只だ多少增加の傾向を有せり、而して事業の總數は三二四之れに從事する勞働者の數は二九五七、只だ勞力は著しく低廉なり。

七

本州は鑛産物に豐富にして、之れが主要なるものには、金、銀、鐵、鉛、朱、滿俺、寶石、石炭、岩鹽、石綿、雲母、石油等にして就中金鑛は今日迄既に或點迄の發達を現はし、一年間の産金額一三一六八七「オンストロイ」價格二五〇〇〇〇〇弗、只だ通路の不完全と生産費の過大なるとは、此業の發達を妨害する非常なる原因たり、斯くて本州内にある金鑛にして今尙ほ閉鎖狀態に存するもの少からず、殊に本州に於ける鑛山經營の困難なる理由は殆んど一年間を通じて土地の氷結することなりとす、故に金産額の比較的大なる地方にありては專ら木材を燃燒して以て之れが氷結を防ぐも然かも此方法たるや費用大にして、現に斯くの如き燃料に供せらるゝものは三四三立方尺に對して九乃至一〇弗の高價を現せり、最近、白耳義の一技師は「バ

ルグシン」の地方に於て蒸氣力を利用して此弊を防がんとする方法を講ぜり、尙ほ官營の下に、ありし「ネルチンスク」の銀、鉛鑛は最も重要視せられしものなりしが、强迫的勞働の廢止以來著しく其產額を減じ、終に一九〇六年を以て閉鎖するに至れり。

八

本州の商業は主として一面に於ては原料品の取引他の一面に於ては歐露其他の方面より輸入せらる、貨物の分配にして、之れが中心市場として有名なるは「チタ」、「ストレイエンスク」、「ベルチニウヂンスク」、「トロイトスコザヴスク」、「ネルチンスク」、「ペトロフスキーツァボド」、「ベルチンスキーツァボド」、「アクサ」、「ボルシア」にして、是等の市場に於ける取引高に就きては何等、明白なる統計なし、尙ほ內外貨物の輸出入は主として「トロイトスコザヴスク」「マンチュリア」、「ストレイエンスク」、「アクサ」等を經て營まる、今、次ぎに擧ぐるが如き商品は一九一〇年に「キアフタ」を經て輸出せられしものにして、即ち砂糖三四二八三弗、麥粉三五六一二弗、製革品一五四九二一弗、雜貨一四三一八弗、燐寸三一〇三弗、煙草一三八〇八弗、其他四八一六弗、合計二六〇八六一弗、而して二三四九〇弗の獸皮は獨逸方面に輸出せられ、砂糖（三八五一三弗）、燐寸（七七三弗）、雜貨（一九〇五二三弗）は支那人の手によりて輸出せられしものなりとす、尙ほ以下の貨物は「キアフタ」を經て輸入せられしものなりとす。

品種	價格
支那方面	
茶	三七五二〇弗
其他	三一九
合計	三七八三九
蒙古方面	
牛酪	三八二一五
獸脂	一五一八六
牛皮	四一九一六九
毛類	九二五三二
羊毛	二五五八五六
駱駝毛	六五七五一
獸皮	九五二一一二
「カシング」（羊）	八七二四
馬毛	四七四三
羊皮	一四三八一二
其他	六三一五
合計	二〇〇二四一五
總計	二〇四〇二五四

以上の外、支那方面より「トランスバイカル」「イルクツク」其他の諸州に輸入せられしものには茶（二六一八二四弗）、毛類（五五二六弗）、毛皮（一六八七二八弗）、自餘の貨物（四三二三六弗）合計四七九三一四弗あり。

九

「ヤクーツク」州に就きては一般に知られし點少きに不拘、非常なる面積を有し、即ち北は北冰洋に東は「カムチャッカ」及沿海州に、西は「イェニセイ」州に、南は「イルクーツク」、「トランスバイカル」及黑龍江州の三州に接し、全周七三三四哩其中二六六七哩は海洋に接せり、更に此州の面積は一五三五四六三方哩即ち露國全面積の六分の一露領亞細亞の三分の一を占む。

本州は人跡稀れなる地方多く、其中知られたる地方は僅かに一六九五六〇〇「エーカー」にして、殆んど全州の七二「パーセント」は森林を以て蔽はれ、且つ本州は陸路極めて不便なる結果、貨物の輸送は多く水路によれり、而して數年前迄は此州の沿岸は氷結の爲め航海不可能と認定せられしが、一九一一及一九一二兩年に亘る探險事業は此思想の誤れることを明かにするに至り、遂に露西亞義勇艦隊によりて浦鹽港と「コリマ」河口との間に定期船の航通を見るに至れ

り。

尙ほ、本州は次に擧ぐるが如き行政區に分たる、即ち「ヴルコイアンスク」（面積四一三四八二方哩）、「ヴリウイスク」（面積三八七七〇〇方哩）、「コリムスク」（面積二六五七一〇方哩）「オレクミンスク」（面積一四七四七七方哩）「ヤクーツク」（面積三一六〇三一方哩）なりとす。

本州は南に高嶺を控ゆる結果、溫暖なる南部の影響より除外せられ、斯くて人類の住居地としては世界最寒の地方たり、殊に冬季に於て甚しく、夏季は極めて短く、春秋兩季は全く之れを缺げり、而して本州內の諸流が全く氷雪を見ざるは僅かに六月の中旬のみにして、既に十月の中旬に至れば諸河は再び氷結するに至る。

本州內の森林は多く落葉松の樹林にして其間點々として樅、松、「シダー」等あり、又、諸河の流域及湖畔には楊柳、樺、「ポプラ」等を見ること少からず、又、北氷洋に面する一帶の地方は地理學者の所謂「ツンドラ」帶にして沼澤性を有し、其間蘚苔類及蘆荻等よりなり時に多少の楊柳及落葉松を混ずることあり、尙ほ此「ツンドラ」帶は此地方の住民によりて一種の補食物たる苺子に富めり。

最近の研究によれば、以上の「ツンドラ」帶にして其沼澤性を失ふに於ては之れが植物は「アルプス」の高山植物と頗る相似たるものなりと斯くの如きは單に「ヤクーツク」のみにあらずして、西比利亞にして極圈帶に濱する地方は總て同一なりとす、若、本州にして之れが人口緻密を來たすと共に、海陸兩方面の交通にして便利を齎らすに於ては本州の「ツンドラ」帶及森林帶にして瑞西に見るが如き「チース」の製造に最も適當なる地方を見出すこと必ずしも困難にあらざる可し。

以上本州の植物に比して動物の方面は極めて豐富にして現に地方住民の生活上に於ける主要なる資源をなせり、即ち沿岸地方及島嶼にありては各種の海獸殊に鯨、海馬、海豹、北極熊等を產し、又、陸上に於ける森林中には各種の野獸及鳥類を見、水產物も亦た同時に豐富なる狀態を呈せり。尙ほ本州住民の主なる職業は狩獵にして商賣上價値ある動物は黑豹、栗鼠、貂、熊、狐、兎、水獺、海狸、山猫、馴鹿等にして鳥類にては家鴨、鵞、白鳥、海鷗、潛水鳥又た淡水魚としては鱸、鮭、鯉、鱒、梭魚、石班魚等の類なりとす。

十

本州の人口は殆んど土着の住民にして、即ち土人は全人口の九一・四「パーセント」、之れに對して露西亞人は七・六「パーセント」其他は猶太人、波蘭人及獨逸人なりとす、尙ほ以上土人の中二三五六〇〇人即ち人口の八六「パーセント」は「ヤクーツ」人にして、露西亞人は本州の征服者たる「コサック」の後裔者、商人、農民、流竄者よりなり、其總數二七四四四二人なりとす。

以前、本州は農業上の經營には不適當と認定せられしが、最近の調査によれば必ずしも然からざることを證明せり、即ち一九一二年に於ける殖民局によりてなされし三回の調査は本州が殖民地として充分なる資格を有することを明かにせり、但現時に於ける本州の農業は極めて小規模にして、小麥栽培は之れが主たり、尙ほ穀產物の成熟時期は大麥は七一日、春期豆類は九二日、燕麥は八二日、小麥は七六日間とす、又農業上に使用せらるゝ機械及器具は漸次地方の市場に其輸入を見るに至れり。

本州に於ける野菜の栽培は之れ亦た極めて少

く僅かに「スレドニコリムスク」、「コリムスク」、「ヴルコイアンスク」等の地方に之を見るのみ、斯くの如く野菜栽培の發達せざる理由は主として夏季の短時期なると住民の多くが、此時期間に漁業に從事するによるものなりとす。

十一

牧畜業は本州の住民殊に遊牧的生活をなす土人にとりては重要なる意義を有するものにして只だ氣候の嚴寒なると、之れが取扱方法の宜しきを得ざる結果として本州の家畜は其數に於ても亦た其質に於て良種と稱することを得ず、今一九一一年の調査によれば本州の家畜總數四八六八一六頭、之れを細分すれば馬一一三三一四頭、牛三三三八五一頭、羊一四〇頭、豚六三八頭、馴鹿三六二八三頭、橇用犬一五九〇頭、而して以上の家畜中これが六五「パーセント」は「ヤクーツク」地方、二〇「パーセント」は「ヴリウイスク」地方に屬せり、又、馴鹿の約八〇「パーセント」は「ヴルコイアンスク」地方に屬す、更に以上家畜總數の約九五「パーセント」は土人の所有にかゝるものにして、露西亞人の所有するものは僅かに以上總數の五「パーセント」に過きず。

次ぎに本州内に於ける狩獵は年々減少の傾向を現せり、斯くの如きは數十年來の濫殺の結果に外ならず、「ヴルコイアンスク」と「コリムスク」地方に於ける土着の遊牧民は共に狩獵を以て家業となすものなり。而して本州内に於ける自餘の地方は漸次之れが重要の度を減ずるに至れり、尚ほ獸皮は主として同地方の商人に賣却せられ、「ヤクーツク」は此取引の本州内に於ける中心たり、又、過去數年間に亘りて「コリマ」地方より「アナヂル」及「チュコツク」を經て北米合衆國に輸出せられしことあり、勿論、本州にありては獸皮は最も主要なる輸出品なりとす。

十二

本州は河流及湖沼に富む結果、自から魚族も亦た豐富なり、殊に「コリマ」地方及「ヴルマイアンスク」の一部にありては之れを以て家業とするもの多し、但、自餘の諸地方は以上の兩地方と異なりとて、一種副業の狀態を呈せり。

漁業として營まれつゝあるは「レナ」河及其支流と沿岸地方にして此方面に於ける主要なる魚族は「ネルマ」「モリサン」Salmo thymallus 鮭、ヘリング」、梭魚等にして、是等の魚族は「ヤクーツク」に輸送せられ、更に此地より「イルクツク」州の鑛山地方に齎らさるゝものなりとす。

本州に於ける製材業は未だ見る可きものなく毎年「レナ」、「ヤナ」、「コリマ」の諸流を經て輸送せらる、木材は餘りに多からず、斯くの如きは要するに製材の價格の高價なるによる、而して之れが原因は勞働者の缺乏即ち勞銀の高きによるものなりとす。

本州は多量の鹽類を有せり、殊に之れが豐富なる地方は「ヴリウイスク」の「バギンスキー」及「ケムペンダ」の兩泉にして現在之れが產出額は少きも尚ほ年に一〇〇〇噸に達せり、只だ之れが生產たるや、輸送の困難なる結果よりして今日にては尚ほ未だ充分と稱するを得ず。

十三

本州に於ける工業は僅かに地方の需用を充たすに止まれり、只だ「ヤクーツ」土人の中には鐵、銀、骨細工をなすもの少からず、而して鐵は最も幼稚なる方法によりて採取せられ、骨細工は「マンモス」の骨を材料とせるものにして、西比利亞全國を通じて廣く此細工の販路を有す、又「ヤクーツ」土人は巧に獸皮を以て各種の絨氈を製す、要するに、本州よりの輸出品は獸皮、「マン

モス」の骨、牛馬、牛酪、食肉、魚類にして、之れが主要なる仕向地は「イルクーツク」州の鑛山地方たり、而して年々の輸出額は約三六〇五〇〇弗に達す、次ぎに輸入品の主要なるものは雜貨、食料品、葡萄酒、酒精等にして其額六一八〇〇〇弗、以上の商品は夏期「レナ」の水路によりて輸入せらる、州内には年々二回の大市あり、一は夏季即ち七月十日より八月一日迄、後者は十一月一日より一月一日迄、而して夏季の市場に於ける取引高は五七五〇〇〇弗、冬期のは之れに比して其額少く即ち三二五〇〇〇弗に過ぎず。

十四

「サカリン」島に於ける露領は同島の北部にありて面積僅かに一五三四七方哩、而して此島の南部は一九〇五年以來日本の領する處となれり

本島は韃靼海峽によりて大陸と分たれ、而して此海峽は廣き處にて約一〇〇哩を有するも、「ポゴビ」、「ラザレフ」兩岬間の距離の如きは僅かに二〇哩を出でず、尙ほ同島にありて安全なる碇泊地は主として西部海岸にありて、之れに反して東部海岸は淺く從つて船舶は海岸を去る遠き海上に碇泊せざる可からず。

幅員狹少なる本島の沿海には二個の寒流あり一は「オコック」海の北東部を發して南西の方向をとり、本島の西海岸を洗ひ、第二の寒流は同じく「オコック」海の北西部に發し韃靼海峽を過ぎて日本海に入る、斯くの如く寒流に包圍せらるゝ結果、冬季は非常に寒く、夏期は極めて短し。

十五

本島在住の露國人は二三の場合を除き、多く昔時、强迫的に移住せしめられたるものゝ子孫にして、但、日露戰爭以來、是等流竄者の子孫は自由に解放せられし結果、之れが人口は著しく減少せり。即ち現時、本島に在住する露國人は其數四〇〇〇人而して之れが全人口は八六〇〇人にして土人の數も漸次減少せり。

本島は一個の農業地よりも、寧ろ鑛產地たり而して、本島鑛產物中第一位を占むるものは石炭にして、之れが炭田は殆んど全島到る處に存し、殊に品質佳良のものは西部地方例者「マガチ」及「ヂュエ」等にあり、但、炭坑の組織方法不完全なる結果、充分なる採炭額を得ること能はず、而して之れが最も重大なる原因たるものは適當なる石炭輸出港の缺除せることなりとす、斯くて一九一二年には本島内に適當なる港を設くるの議熟し、其結果、本島の主都たる「アレキサンドロヴスク」を以て此資格を有するものとなし、之れが築港の費用として二五〇〇〇〇〇弗の費用を要すること世に公にせらるゝに至れり。

次ぎに石油も亦た普ねく本島内に見出され、殊に北部地方即ち「ウルクト」、「チャイヴンスキー」兩灣の方面に於て最も多く、之れに加ふるに數年前には石油の池を見出すに至れり、但今日迄は未だ商業上有力なる意義を有せず。

十六

本島に於ける沿海漁業は近時、長足の進歩をなし、殊に之れが主要なる魚類は「ヘリング」及鮭にして、最近迄之れが漁業の中心は北部沿岸なりしが、一九一一及一九一二の兩年にありては、魚類は漸次同島の東海岸に移り、斯くて「ニヱ」及「チャイヴンスキー」兩灣内或は其附近に於て著しき之れが獲得を見るに至れり。

本島の約十分の九は森林帶にして、之れが主要なる種類は檜、樅、楓、樺等にして、「ピレボ」河口に近く、一九一一年に製材場設けられしも、なをも其生產費の比較的高價なる結果、今日にては一部地方の需用を充たすに過ぎず、又「ア

レキサンドロヴスク」には官營の製材場あり、之れ又た地方の需用を充たすに過きず、之れを今日の狀態より見る時は大規模の製材場を設くる價値は疑問たり。

本島は野獸及鳥禽類に豐富にして土人は主として狩獵に從事するも露國人は少く、主なるものは黑貂、栗鼠、馴鹿、水獺、熊、狐、海豹及海馬等なりとす。

本島の商業は殆んど見る可きものなく、年々の輸入は貨物約二六九〇噸にして輸出品の主なるものは魚類、醃鰯、苺子等なりとす、尙ほ本島內に於ける二個の主要なる製造業は「ウォドカ」及麥酒の釀造所の存することなりとす。

十七

「カムチャッカ」州は一九〇九年初めて獨立して一州を形成せしものにして、其以前は沿海州の一部たり、本州は「ウダ」河の北部にある「オコック」海の北西海岸地方と「カムチャッカ」半島と「チュコツク」と「ベーリング」海の諸島よりなる。「ペトロパヴロスク」は本島の首府にして「アヴチンスク」灣に臨み同半島の北東部にあり、而して此地は露國人が初めて本地方に出現せし際に一城壘を築きし處にして（一七四〇年）、最近に至り稍々都市の觀を呈し、現今にては一〇〇〇の人口を有せり、而して夏季は露國義勇艦隊の定期船來るも、冬期は全く水運絕え、郵便物の如きは僅かに犬及馬によりて之れを齎らす、に過ぎず、只だ無線電信局は一九一〇年を以て黑龍江畔「ニコライエフスク」に設けられたり。

尙ほ「カムチャッカ」にありて比較的有名なるものは「オコック」海の北西海岸、「オコータ」河口にある「オコック」と「オコック」海の北端「オコック」河口にある「ギヂガ」なりとす、「オコック」は一六四七年を以て設けられ、爾來十九世紀の初期に至る迄、亞細亞の極北東部に於ける露國の活動地點にして、只だ市街は何れの點より見るも極めて貧弱にして加ふるに、之れが附近の地方は不健康地にして飲料水の如き三哩の遠距離に求めざる可からず、海岸は淺く、從つて碇泊に便ならず、加ふるに潮汐の差甚しく、「ネンギンスク」灣方面より來る氷塊は七月下旬に至る迄其跡を絕たず、尙ほ此方面は霧深し、而して「オコック」は現時人口僅かに四〇〇人なり。

「ギヂガ」は「カルヤーク」族を征服する爲め、一七五三年に設けられたる城柵の所在地にして其地位甚だ惡しく、海岸は淺く船舶は河口より二〇乃至二五哩の遠距離にあらずんば碇泊すること能はざると共に、住民は「カルヤーク」、「ラムード」「ツングース」及露西亞人よりなり、土人の數は明かならざるも露西亞人の數は約五〇〇人、「オラ」は本半島に於て最も安全なる上陸地點たる「タウスク」灣に位する重要なる一村落にして、殊に此地の意義が顯著なるに至りしは「オラ」と「コリマ」間とに商業上の通路開かれ、其間四〇〇哩之れに要する時日は一五乃至二〇日、費用は重量三六封一一に對して一弗五なりとす、而して夏季は運搬上には馬を使役し、冬季には犬及馴鹿を使用す、現時、「オラ」及其附近に集中する人口は五〇〇〇人にして、其大多數は「ツングース」なりとす、「アヤン」は昔時より露人の移住せし土地にして風波の難なき灣內にありて地方に茶を輸出する主要なる地點たり。

要するに本州は嚴寒の故を以て農業は見る可きものなく、從つて住民大多數の職業は漁業、狩獵及鑛山業にして、最近、本州內を調査せし露國鑛山技師「オボデンコ」の報告によれば彼れは金鑛其他有用鑛物の豐富なることを明かにせり、而して彼れが見出せし中には Platinum,

ridium, palladium, osmium あり、又、彼れは「ゴロヴンスキー」河の流域に於て土人が幾多の寶石を採取せし事實を述ぶ、而して是等の寶石の米國方面に輸入せらるゝものは一個一弗乃至四弗の相場を有せり。

「カムチヤッカ」沿海に於ける漁業の發達は露領歐羅巴及び自餘の方面にありて非常なる注意を惹起せり、曩きに「ペトログラト」に於ける果物、茶、葡萄酒、魚類取引所の報告によれば專ら露國の鐵道局をして「カムチヤッカ」より歐露に齎らさるゝ魚類の運賃を低減せんとするにあり、蓋太平洋方面に於ける露國の漁業地は地理上及經濟上より觀察して「プリモルスキー」（沿海州）及「オコック」、「カムチヤッカ」の兩漁業地域に區別するを得可し、勿論前者は後者に比して最も適當なる地位に存し、殊に水陸交通の狀態に於て遙かに後者に凌駕せり、即ち後者にありては僅に短時日の航海に於て之れを輸送するのみにして、其他の時期は殆んど自余の地方より隔離せらるゝ狀態にあり、要するに年々移住者增加の結果として「プリモルスキー」方面の人々が大なることは漁業者は勞力と需用品を得るに非常なる便を感せしめ、之れに反して「オコック、カムチヤッカ」方面にありては不得已、「プリモルスキー」方面より勞力と材料とを輸入せざる可からず、加ふるに「プリモルスキー」方面にありては漁業以外に金鑛、製材業、農業、其他の製造業發達せるに對して「カムチヤッカ」にては僅かに漁業及海獸捕獲業の發達せるに過ぎず、斯くの如く不利益なる狀態に存することは「オコック」漁業をして人爲的の救濟策を講ずるの必要を感せしめ、即ち此業の奬勵と此地方の人口を更に增加せしむる方法として、露西亞義勇艦隊の船舶によりて積載せられしものとの證明あるは黑龍江の方面の魚類に比して一「プート」二〇仙の鐵道運賃を低廉にす可きことにせり、又、此海洋方面には日本人の經濟的勢力の最も熾んなることにして、但斯くの如き狀態は此方面の開發に對しても、歐露方面に於ける供給狀態を考察しても、共に有益なることなりとす。

十八

黑龍江州の地味を以て歐露方面に比較する時は略ぼ「ノヴゴロド」及「プスニフ」と相同じく、鑛產物として金、銀、錫、銅、大理石、陶器の原料たる白、綠粘土、「アンチモニー」等にして其外、石炭の產地及幾多の鑛泉あるも未だ充分なる調査を缺けり。

氣候は大陸的にして、一般を通じて農業に適す、又、植物は南方の氣候に發生するものと相混じ、時として吾人は葡萄蔓の樅にせゝられることを見出すことあり、樹木の主なるものには樅、檜、西比利亞產「シダー」、松、又、南部方面にては柏、「アカシア」、「ポプラ」、樺、楡等を見ることあり。

之れを概觀して本州は學問的よりも商賣上の立脚地より研究せられしこと多く、本州の森林は主として政府の所有に屬するものと「コサック」及農民の所有地とあり、而して其中、官林の面積は二九八三九七五〇「エーカー」に達す。

行政上の目的より本州は次の如く區分せらる黑龍江地方、黑龍江、「コサック」地方、「ツアイア」鑛山地方、「ブレア」鑛山地方、「ダッァルンダ」鑛山地方、下部「セレムア」鑛山地方、「ヒンガン」「スター」鑛山地方之れなり。

本州の住民は主として黑龍江、中部及下部「ツアイア」「ブレア」河及以上の支流に沿ふて集中せり、今、一九一一年の人口統計によれば左の如し。

人種	男	女	全數
露西亞人	一三八〇八四人	一一三一六七人	二五一二五一人
歐洲人	二〇一	四五	二四六
日本人	五三七	二八三	八二〇
朝鮮人	一六〇九	四六五	二〇七四
支那人	三一八〇九	六三	三一八七二
合計	一七二二四〇	一一四〇二三	二八六二六三

十九

本州にては住民の最大多數は農民なるを以て農業其者の發達は本州にとりては最も重大なる意義を有するものなりとす、但、其氣候と地味とは能く之れが目的に適し、尙ほ將來に於て開墾し得可き土地少からず。

農民團體「コサック」及其他の移住者により有せらるゝ土地の面積は二七一二二七二三「エーカー」にして、之れを細分すれば農民團體の所有地は二三七一三六七「エーカー」、黑龍江「コサック」一五六一九五〇〇「エーカー」「ブラゴベジチェンスク」市に附與せられたるもの五八五五五「エーカー」、「ツェイア、プリスタン」三七五三〇「エーカー」、其他移住者に與えられたるもの九〇三五七九一「エーカー」あり、以上の面積中、耕作せられつゝあるものは一九一一年に於て六四九五七四「エーカー」に達せり。

小麥は本州に於て最も重要視せらるゝ作物に之れに次ぐものは燕麥、蕎麥、黍及大麥なりとす、尙ほ冬季性の穀物は寒氣强く降雪少き結果發達せず、普通本州に於ける農事は四月下旬に開始せられて、九月下旬に終るを常とす、又、馬鈴薯栽培は農民の生活上最も重要なる意義を有す、本州に於ける農作物收穫狀態は左の如し

品種	播種量	收穫高
小麥	一九一六三噸	九六一九七噸
ライ麥	一〇二七	四五五六
燕麥	二〇〇八〇	九六三二五
大麥	一八四	八二四
蕎麥	三五〇	一六四八
黍	一二四	一二八五
馬鈴薯	三八〇〇	二六八二二七

以上、農業上に從事する勞働者の勞銀は之れを彼等の生活品の價格に比較する時は高價にして、而して一九一一年黑龍江州に於ける農業上の勞働者に仕拂はるゝ平均勞銀は次表に見るが如し。

從業期間	賄なし	賄付
男（一年間）	一五〇—二五〇弗	一〇〇—一九二弗
女（一年間）	一一五—二二五	六五—一〇〇
男（四月一日より十月一日迄）	九〇—一〇〇	七〇—九〇
男（十月一日より四月一日迄）	四〇—六〇	三〇—四〇
女（四月一日より十月一日迄）	六五—九〇	五〇—七〇
女（十月一日より四月一日迄）	三五—五〇	二五—四〇
播種期に於ける勞銀但一日分		
男（役畜付）	二—二・二五	一・—一・七五
男（役畜なし）	・八八—一・三八	・五〇—一・一五
女	・五〇—・八五	・三八—・六五

乾草より入期に於ける勞銀、但一日分

男（役畜付）	二・—二・二五	一・—一・七五
男（役畜なし）	・八八—一・四〇	・五〇—一・一〇
女	・五〇—・八五	・三八—・六五
收穫期に於ける勞銀、但、一日分		
男（役畜付）	二・—二・一三	・七五—一・七五
男（役畜なし）	・八八—一・三五	・五〇—一・一〇
女	・六三—一・〇	・五〇—・七五
「エーカー」に對する勞銀率		
鋤返し時期		
春季	二・二二—四・二六	一・八七—二・二二
夏季	二・〇五—三・七五	一・六七—二・〇四
秋季	二・二二—三・三三	一・六七—二・二二
田ならし時期		
春季	・九三—一・三〇	・七四—一・一一
夏季	一・一—一・六七	一・〇二—一・四八
秋季	・九三—一・四八	・七四—一・三〇
播種	二・〇三—三・五二	一・六七—二・七八
收穫	三・七五—六・八五	二・九六—五・九二

黑龍江州は露西亞領の極東方面に於ては最も有望なる農具の需用地にして、是等の農具は個人的の會社又たは信用機關を有する移民局に於

て供給せらる。

二十

製材業は本州にありては主として農民の副業として營まれ、而して是等の製材は水路により て「ブラゴベエシチンエンスク」「ツエイラ・ブリスタン」及「ツェイラ」「ブレア」諸河の畔に於ける貨物集散地、黑龍江鐵道及鑛山地方に齎らさる、尙ほ本州には製材其者を專業とする勞働者なく、一般に此事業には各方面の勞働者を雇入れるものなりとす、次ぎに本州內に於ける製材場は總數二十一にして其中百三十八人以上を使役し年に八八〇〇〇の製材をなすもの七ケ所あり。

黑龍江州に於ける牧畜業は未だ一個の獨立せる產業を形成せず、只だ農業の副業として營まれ、一般の狀態は牛より馬を重んぜり、而して馬匹は主として耕作及貨物運搬の爲め使用せらる、牧牛事業はそれによりて齎らさるゝ利益の少き結果として其進步遲々たり、而して主要なる家畜は多く「マンヂユリア」、「モンゴリア」、「トランス・バイカリア」方面より輸入せらる、尙ほ黑龍江州に於ける地方產の牛は軀幹矮小加ふに運搬力薄弱なり。

次ぎに牧羊業は充分なる牧場を有せざる結果として多く見る可きものなく、之れに反して養豚業は最も重要視せられ從つて其發達見る可きものあり、尙ほ本州に於ける家畜の總數は一九一一年に於て二六三〇九六頭、其中、馬匹一一一九四三頭、牛八二七〇一頭、羊一二八四一頭、豚五二四二五頭、山羊二七五頭、馴鹿二八五九頭、驢馬五十二頭となす。

二十一

漁業は主として「コサック」と黑龍江及之れが支流の河畔に住する農民によりて營まれ、住民の生活上には重要なる意義を有するも、未だ州外に輸出する地位に達せず、而して主なる魚類は鱒魚、「カルガ」Salmo thymallus 及「ケタ」等なりとす、蓋、此州の住民にして此後益々增加するに於ては本業は極めて有望なる將來を有するに至る可し。

狩獵は本州にとりて主要なる職業にして、之れが主なるものは獸類にありては黑貂、栗鼠、狐、熊、虎等にして鳥類にありては雉子、鴨等あり、毛皮は各村落に於ける問屋風のものに賣拂はるゝものと「ブラゴベエシチエンスク」其他の市場に齎らさるゝものとあり。

二十二

黑龍江州に於ける養蜂業は小規模なるも、漸次發達の傾向を有し、殊に之れが中心は「ベラ」「ハル」「ツァビタ」諸流方面の九十二ケ村にあり、一九一一年の統計によれば此方面より市場に齎らされし額は蜂蜜四四三四五封度、蜜蠟四四三四封度に達せり、蓋、本州の氣候は此業の發達に適せるも、然かも多く發達せざるは住民が他に利益ある職業を有するを以てなり。

蔬菜の栽培は本州にありては主要なる職業たるも、多く地方の需用を充たすに止まれり、而して之れが大規模に營まるゝ地方は「ブラゴベエシチェンスク」の近郊なるも、此方面にありては黑龍江の右岸に於て專ら此事業に從事する支那人との競爭甚し、而して此方面の主要なる產物は胡瓜、甘藍、蕪菁、馬鈴薯等なり。

金鑛は本州に於ける主要なる工業にして一九一二年に於て採取せられたる額は一〇四五〇七「トロイオンス」にして、尙ほ現時本州に於て許可せられたる金鑛一二九の中、五七は四八の會社によりて經營せらる。

二十三

本州内に於ける工業は漸次發達の傾向を有せり、而して之れが事業の主なるものは「プラゴベエシチェンスク」の附近に集中し、將來に於て益々有望なるを示せり、但、之れが發達を阻害する要素も亦た少からず、之れが主なるものとしては資本及技術者の缺乏、勞銀の高價及交通機關の不完全なることなりとす、尙ほ本州よりの主要なる輸出物は穀物及毛皮にして農具、金屬品、及雜貨は之れが主要なる輸入品たり、而して「プラゴベエシチェンスク」は本州に於ける取引の中心點にして歐露、獨逸、北米合衆國及支那方面より貨物の輸入せらるゝもの多し。（未完）

獨逸兼營銀行論（上）

（獨逸兼營銀行の銀行經濟的經營關係の解剖）

大矢知昇

一

最近に於ける獨逸經濟生活の擴充は世界經濟史上の一大驚奇である、而して此驚奇すべき、擴充の嚮導的動力は人口增加なる生理的現象に求むるを要すれども、亦同國銀行が其發展の勢を增進せしめたる事を認識せざるを得ない。『銀行は經濟的有機體の神經中樞なり』との俚諺的敎示は、眞に克く、獨逸經濟生活と同國銀行との關係を語るに適する、而して同國銀行とは兼營銀行を意味すること勿論である、蓋し兼營銀行こそ獨逸流銀行と英國流銀行とを區別するものなるが故である、此處に兼營銀行とは獨逸語の"Gemischte Banken"を譯したるもので（註一）銀行經濟上の正則業務と不正則業務を兼營む銀行を云ふ、換言すれば預金銀行と投機銀行とを兼ぬる銀行を云ふのである、而して銀行經濟的經營關係とは銀行技術的經營關係とを區別せんが爲めに用ひたる、言葉である。蓋し一國銀行制度の本體に關し、徹底的智識を得んとすれば、必ず經濟的方面と其技術的方面より研究するの要がある。然るに本論文の研究は專ら前者のみに止まる、從つて其意を明かにする爲めに『銀行經濟的』(bankwirtschaftlich)なる用語を必要としたのである。吾人は今、直ちに統計的材料の力を借りて、經營形態を闡明にするを避け、先づ順序として、獨逸銀行が過去に於いて、學界に於いて如何なる取扱ひを受けたるや否や、及び實際社會の銀行に對する態度が如何なりしか、亦現に如何なるやの問題を其出發點とせんと思ふ。此問題は一見研究に迂なるが如き感あるも、事實は然らず、反つて此豫備的智識が存するにより一層經營關係を明かに理解するを得るのである。以下、節を分つて研究の歩を進むる。

（註一）フックスは其著 Volkswirtschaftslehre に於いて銀行を其資本の性質により分類し、國有銀行(Staatsbanken)、混成銀行(Gemischtebanken)及私立銀行（Privatbanken）と爲した、フックスが、Gemischte banken と呼ぶものは一種の特權銀行若しくは國家が多大の資本を投入せる銀行を意味するものなれば、彼れが云爲した Gemischte banken と予のそれとは、同語異義なることを記憶し、混同せざるの要がある。（Fuchs—a. a. O. S. 96.）

二

事實的材料を基礎として、獨逸兼營銀行を科學的に研究したる者は少く、偶々ありとするも繙讀、研鑽に値するもの少く Hübner 又は Mirth の研究の如きは元より然りである、只僅かに Model—Die grossen Berliner Effektenbanken. Jena